

15. 放射線部門における新たな機器メンテナンス体制の構築

伊勢赤十字病院 ○森嶋 毅行、岡田 和正、鈴木 孝明、藤原 綾香
河川 洋平、大山 泰

【目的】

近年増加傾向にある検査を最大限に受け入れるためには機器の安定稼働は重要である。また救急医療の現場においては時間軸の短縮がキーワードとなっており、機器トラブル復旧にかかる時間の短縮は医療安全に直結し、従来のメンテナンス体制ではこれを維持することは困難であると考えた。そこで当院では2015年6月から医療機器メーカーであるGEヘルスケアジャパン株式会社（以下メーカー）と放射線部門における新たな機器メンテナンス体制作りに関し合意の締結をした。本発表では装置トラブル予防に向けた予防メンテナンスを明確にした効果、ならびにトラブル発生時の迅速な初期対応の運用形態について構築したため報告する。

【方法】

まず装置に通信機能付きタブレット端末を設置し、リモートサービス体制を構築した。機器には遠隔測定ツールを設置し、メーカーによる週一回のログ解析も行った。

また現場の技師が五感で感じた部分を、上記タブレット端末を使用しメーカー本社と現地のフィールドエンジニア（以下FE）で共有し、これらの情報から予防修理の必要性を判断するという取り組みをアンギオ装置に対し行い、取り組み前の2014年と取り組み後の2015年で比較した。

【結果】

取り組み後の2015年は2014年に2件あった緊急修理をゼロにでき、予防修理をすることで、作業時間を40%低減することができた。また現場でも体感としてその効果を感じることができた。

【考察】

メーカーによる予防メンテナンスや平時からの情報共有の効果が確認できた。このことから技師もこれから装置のトラブル予防に向けた動きに積極的に関わっていく必要があると考える。また機器の状態把握に技師と現地のFE、メーカーのコールセンターそれぞれが単独で動くことは非効率であり、今回のようなツールを使用した各分野の専門家が独自の専門性を生かして同時に装置復旧に介入するという試みは、迅速な復旧措置に繋がると考える。